

地域密着型サービス評価の自己評価票

五 頭 庵

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町内の中にホームを建てている建物も普通の家と変わらない創りで庭園もあり地域との交流もあり心穏やかに過ごせる様配慮されている。		近隣との交流を増やして行きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホ-ム内に理念を張り出し常日頃それに向け努力している。		常に利用者を一番に考えてのケアを目指している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ほっとあがのグループホームとして便りを発行し地域に回覧、自治会長が参加される運営委員会で理解して頂いている。玄関に掲示させて貰っている。		阿賀野市広報に市内グループホームのご案内を出して頂いた、グループホームとは何かを知って頂くために。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけたりする際に隣近所の方と挨拶したり話しをしたりする、ゴミ出しの時は挨拶している。		畑で取れた野菜を毎日のように持って来て下さる方がいる、行事がある時は声がけ来て頂ける様にしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ゴミ箱掃除、回覧板、賽の神、夏祭り参加ボランティアとして地域の方に来所して頂いている又地域公園の草刈、こども会と一緒に参加する。		行事等は近所の方の歌、民謡等の出来る方が来所されている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月1回全体会議や2ヶ月に1度の運営委員会等出で話し合いをしている、消防訓練時地域の方々参加して頂いた。		介護者教室、認知症についてのお話など会を計画して見たい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	成果が出ているかどうかは別として意識して取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	良い点だけではなく厳しい視点での意見も出るためしっかりと受け止めている全体会議の中で話し合いの議題とする。		会議に出した問題については職員会議の中で話し合いされる。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護保険課の指示頂いたりお願い事に上がっている、GHと市介護保険課の会議に参加している。		月1回 定期的提出物をしている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度講座に参加し学習の場を得ている(管理者)利用者様ご家族より要請があり対応した。		職員も積極的に法的部分を研修や本などを通して深めて行く様にする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の講義に参加した、職員に研修報告をしている。		管理者からの報告、文書による虐待防止について学び職員は認識している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、家族に説明させて貰い理解しても頂く、必要に応じ話し合いもさせて頂く。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談、第三者委員をお願いし運営にあたっている。</p>		<p>利用者様の気持などを受け止めて行ける様職員は意識して関わって行くようにする。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者様受診時、面会時報告している又GH広報でお知らせしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの不満苦情は管理者から職員に伝わり常に反映させ苦情等が来た日に対応出来る様にしている。第三者委員をお願いしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションをとるように心掛け、問いかけたり聞き出したりしている。定期的に個別面談やミーティングを行ない意見や提案を聞くようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員体制に今後柔軟な対応が出来るよう調整したい。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や交替は必要最小限に抑え、ご利用者と職員、ご家族と職員の間にも馴染みの関係と信頼関係が築けるよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で研修に職員が受講できるよう計らい。職員会議にて研修の報告を行い研修内容を共有している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や交流を通じて、た事業所の意見等も取り入れてサービスの向上に活かしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的にあるいは必要に応じて個別の面談を行い業務上の悩みや職場に対する思いを聴きとり職員のストレスの軽減を図っている。またその要望や意見を働きやすい職場作りに活かしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に勤務の考課と自己評価を実施し職員の勤務状況の把握に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居室で休まれている時、訪問させて貰い個別に会話する機会を作っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族面会時なるべくお話を聴く様にし相談事には支援出来るよう努力している。		ケアプラン捺印時自宅訪問をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との面談をさせて貰い話を聞く、その後本人と面談させて貰いご本人にとって一番良い支援は何かとご家族と今一度話し合う。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホーム内見学等しやすい様に行事などに声をかけ参加しやすい環境作りに努める。		体験入所を経験して貰っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である事を常に頭におき接している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望に近づけるよう努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族来所の際などではお茶や食事にお誘いし一緒に過ごす時間を作るよう心がけている。		家族の方が来所、面接しやすい環境作りや声かけが必要。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に来所出来る様な雰囲気作りに努めている。		今後も続けて行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	時々利用者様同士の小さなトラブルも起こしているが最小限に抑えるよう又未然に防げるよう努めている。		同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設入所になられた方には時々面会させて貰っている、家族との交流もある(近所であるだけに切れない)。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握してはいるが他利用者様との関りで難しい時もある。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた布団、タンス、茶碗、湯のみなど持って来て頂いている、前サービス利用事業所より情報提供を頂いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のバイタルチェック、水分補給の管理に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、全体会議の中で個々のケア見直しを検討し反映している、家族には面会時、受診時話をし主治医には受診時経過報告をし指示を得る。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月に1度の見直しをする、小さな項目についてはその都度職員で話し合い家族と相談しながら作成している。急変された方については、その都度行なう。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日記、観察記録を毎日記入しプラン見直しにつなげている。		あまりにも記録物が多く簡素化を検討したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	転倒骨折から回復された利用者様に週1回のリハビリテーションを行なって貰っている。		訪問看護ステーション、リハビリテーション等で今後支援検討したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市の図書館より月1回本を50冊借りて来る、消防署との交流は大切にしている。小学生のボランティア部との交流あり。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様に以前関わっていたケアマネージャとの交流はあるがサービス支援までは出来ていない。		他事業所ケアマネージャとの交流をもっと密にして行きたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター長に運営委員になって貰ったり、ご指導頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者様のかかりつけの先生へ直接伺いご指導頂き支援して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の相談が先になっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医の相談、指示が先になっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病院へ足を運び状況確認をしている、家族、ソーシャルワーカーとの話し合いもさせて頂く。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアは現状では検討出来ていない。		医療機関にお願いしている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアは現状では検討されていない。		同上
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設入所時は看護師、相談員、ケアマネージャと充分話し合い情報交換をした上で進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各利用者様のプライドを損ねないよう又お客様が来られても不快感を与えないような言葉かけをしている。	職員全員守秘義務の徹底を義務付けている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の話をゆっくり聞く、受け入れる、同調することを常に心がけている。	少しでも思いや希望を言えるような雰囲気作りをし意思を尊重出来る様支援して行きたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自希望に応じた動きをして頂いている、時間を区切った1日の過ごし方はされていない。	少しでも利用者様の意見に耳を傾け希望に応じれるような支援をして行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人様又は家族の方の要望により定期的に出張カットを依頼している。	今後も地域交流の為にも出張カットを依頼して行きたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべくメニューには皆さんの好きな物を取り入れ食事の準備、片付けは皆さんの残存能力を生かして手伝って頂いている。	今後もなるべく皆さんの好物を取り入れ少しでも楽しい、美味しい食事になるよう又より一層職員と利用者様が一對となって食事の準備を行なって行きたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時飲物はメニューで選んで頂いている。	誕生会等の行事にも目を向け少しでも楽しんで貰えるよう協力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食前、食後ないしは夜間時においては定期的に声がけをすることによりトイレへ促がしなるべく失禁のないように心がけている。		今後も定期的に声がけをし、失禁を極力減らし、利用者様に不快感を与えないよう心がける。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各利用者様の希望に応じ、職員の都合で動かないよう(特に拒否があった場合)に支援している。		今後も利用者様の意思を尊重し決してこちらの都合で入浴させないよう心がける。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様が使い慣れた寝具を自宅から持ち込まれベッド、布団と自由に出来る様支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな方には歌と一緒に歌い各利用者様の趣味に少しでも応じられるよう支援して行きたい。		役割については、ほめたり、礼を言ったり役割の楽しさを高めるようにしている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様がお金を所持する事により、外出時買い物をされたりして、それが楽しみになっている。		管理出来る利用者様に関しては、ご家族と相談検討して見たい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりその希望にそって出かける事は、難しい状況である。		少しでも時間を設け各利用者様の希望に応じられるようにしたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回程度の行事により出掛けられるよう支援している。		今後も最低月1回は行事を設け外出できるよう支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夕方ご主人に電話される方あり、手紙も届いているが返信まではまだ出来てない。		手紙交換等これから支援して行きたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居間にはソファがあり家族の訪問の際にはそこに過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束は行なわないことにしているが転倒の危険のある利用者様に限り、ベッド柵、布団に鈴を付けている。		ご家族、ご本ともよく話し合い納得してもらおう。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出、帰宅願望の強い方が居るためやむおえず鍵をかけている、日勤者の居る日や見守りの行き届く時は鍵をかけない様に努力している。		入浴時ご家族より身体抑制の承諾書を頂いている。承諾書を貰わなくても良いホームを目指したい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	特に帰宅願望の強い方の見守りには注意している、所在確認を把握する様にしている。		同上
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な方については物品をお預かりしたりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々一人ひとりの状態を把握し事故防止に努めている、利用者様の状態の申し送りを徹底して行なう。		研修等重ねて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、救急法の講習会訓練を実施、全職員が参加している。		研修等は今後も受けて行く。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者様、地域の方にも参加して頂き、消防訓練を行なっている。		同上
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ベッドから転倒防止のために鈴を付けさせて貰っている。		転倒防止策としての対応時、家族に相談する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の悪い方に関しては、個人の記録ノート以外に申し送りノートに記入し情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬袋に薬の内容と効能を記載し、確認しながら服薬して頂いている、医師からの指示は申し送りノート等で周知されている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分不足にならない様、気を付けている、希望者には牛乳を飲んで頂いたりしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後うがい歯磨きの声かけ、利用者様によっては一緒に磨く等一人ひとりに合った支援をしている。		食前の口腔体操を支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足になりがちの方には食事やおやつの際お茶のおかわりを進めている。		認知症高齢者のアセスメントケアチャートを参考に支援して行きたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員及び外部からの面会者にも通年手洗い、イソジンうがいを実施している、外出者も帰居の際行なう。		毎年、感染症研修を受けており今後も続けたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用后直ちに洗い食器乾燥機により熱殺菌を行っている。		消毒マニュアルがあり消毒チェック表を付けている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に季節の花を置き、掃除をし常に清潔を保つ様に心掛けている。		常に清潔な明るい雰囲気を保てる様努める。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓をし季節の花を飾るなど利用者様が心地よく過ごせる様掃除をし常に清潔を保つ様に努めている。		利用者様が居心地よく過ごせる様に整理整頓をし清潔を保てる様に努める。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとりの居室があり、ご家族の写真や飾り物置き、安らげる空間を作る。		利用者様一人ひとりの居室が安らげるよう掃除をし、清潔な環境を保てるよう努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりに合った寝具を用意し本人の家族の写真や飾り物を置き、居心地よく過ごせる様に工夫している。		常に清潔で居心地良く過ごすために掃除や整理整頓をこまめにする。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者様の状況に合わせて、換気をし外気温との大きな差が無いようにエアコンで温度調節をしている。		利用者様の状況に合わせて、換気をし外気温との大きな差が無いようにエアコンで温度調節をする。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており利用者様一人ひとりに寝室があり、出来るだけ自立した生活が送れる様に工夫している。		フロア内を安全に歩ける様に障害物を置かないよう配慮すると共に利用者様のADLを活かせるような声かけをし安全に過ごせる様に見守りを行なう。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのADLを活かせる様に出来る事は自分で頂くように声かけをし、安全に暮らせるように見守りを行なう。		一人ひとりのADLを活かせる様に声かけをし、安全に暮らせるように見守りを行うと共に一人ひとりが生き生きと生活出来るような雰囲気作りをする。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の庭はとても眺めが良く、利用者様が落ち着かれる様な雰囲気になっている。		眺めるだけでなく、庭で日光浴出来る様にベンチをいくつか置いて、利用者様が落ち着いて過ごせる様な庭にしたい。